



金山杉俳句会報 第四〇一回

針山の中の黒髪河へ返る
電話なら声が聞けると年始
柚子風呂や八十の身愛おしむ
あらたなる年又迎へ力湧く
杉山の四方に囲まれ冬ごもり
山茶花の一片散りて日暮れ時

セイ子
サダエ
敏子
恵美子
よし子
順子



16歳の語り部
雁部那由多 他/ポプラ社

東日本大震災に関する「語り部」の存在をご存じですか？震災当時、東松島市の小学校5年生だった男女3人の高校生が、語り継いでいます。その語りを受けた東京都在住の生徒の思いも綴られています。あの日を語ろう！未来を語ろう！



たまちゃんのおつかい便
森沢明夫/実業之日本社

過疎化と高齢化が深刻な田舎町で「買い物弱者」を救うため、たまちゃんは移動販売の「おつかい便」を始める。しかし、悩みやトラブルは尽きない。それでも誰かを応援し、誰かに支えられ、にっこり笑顔で進んでいく。心が温かくなる、お仕事成長小説！

かねやま紅風会

荒屋 阿部 勝子
年迎ふ鯉の手配もやっと済み
冬すみれ亡友と別れの涙かな
荒屋 関 喜美子
雨雪や傘さす手にも容赦なく
吹雪く中ハンドル握り晴れ間待つ
菅 越 庄司けみ子
にっこりと笑顔の返るお年玉
新聞の年賀の欄へまじめ顔
七日町 青柳キエ子
復興の列車たのもし吹雪く
寒風沙汰なき友の案じられ

七日町 柴田 栖静
金屏風祝ふ創流初舞台
友偲ぶ雪けむり立つ星の夜
羽 場 坂本徳太郎
初明り杉の影絵に昇り出る
雨垂れの音の嬉しかり寒の内
上 台 阿部 一
命綱しかと確かめ雪庇切る
老松や威を張るほどの雪まどふ
七日町 村松 恣風
寒行の錫杖は家並みを浄らし
祝 前町議会議員小野寺様の叙勲
勲功を讃ふ故山の風光る

新刊図書 3月

疲れをとりたきゃ腎臓をもみなさい/寺林陽介
桜風堂ものがたり/村山早紀
大雪物語/藤田宜永
あひる/今村夏子
三鬼/宮部みゆき
寝たまま肩甲骨はがし/たんだあつこ
何様/朝井リョウ
最強の働き方/ムーギー・キム
羊毛フェルトの花ブローチ/須佐沙知子
ズボラでもセンスよく暮らす衣食住100のアイデア/佐々木なほ
残業ゼロがすべてを解決する/小山昇
全部レンチン！やせるおかず作りおき/柳澤英子
ふしぎの国のバード 第3巻/佐々木大河

森の子ども図書 135 交流サロンぽすと内 12:30~17:00



『だれかぼくをぎゅっとして！』
(シモーナ・チラオロ/作・絵 徳間書店社)

サボタは小さな子どものサボテン。お屋敷に住んでいるサボテンたちは礼儀正しくいつもきちんと並んでいます。でもとなりのサボテンにくっつくことは決してありません。相手に近づくことは失礼にあたるから。お屋敷のサボテンたちは「立派なサボテンになるのだぞ」って言うけど、ぼくはそれよりもギュッと抱きしめてもらいたいんだ…。ある時風船がサボタの近くにきました。でもサボタのトゲで大けがをしちゃう。お屋敷のみんなに怒られてしまい、サボタは1人暮らしをしますが…。大人の方にも読んでほしい1冊です。